

大切な人やものを失って、抱えきれない気持ち、誰にも話せないこと、
お話いただける相談窓口があります。

電話相談

毎月第1日曜日 午後3時～5時 第3水曜日 午後6時～8時

電話 03-6453-4925

対面相談（要予約）

初回：2時間・無料

電話、FAXまたはメールで、お名前とご連絡先をお知らせください。
初回予約日の日程調整をさせていただきます。

電話：03-6453-4925 FAX：03-6453-4926

メール：griefsetagaya@yahoo.co.jp

留守番電話にお名前とご連絡先を入れてください。折り返しご連絡いたします。



おひとりでも、複数でもゆったり過ごせる場です。
どなたでもお越しいただけます。

開催日時 隔月（偶数月）第3土曜日午後4時～7時

参加費 18歳まで無料 19歳から1人500円

場所 サポコハウス（世田谷区太子堂 5-24-20-201）三軒茶屋駅から徒歩15分

一般社団法人

グリーフサポートせたがや（グリサポせたがや）って？

死別を体験した子どもやおとなが集い、ゆっくりと自分のペースで自分の気持ちと向き合うことのできる家「サポコハウス」を世田谷区太子堂で運営しています。世田谷区グリーフサポート事業においては、個別対面相談や電話相談などを実施しています。

✉ griefsetagaya@yahoo.co.jp **HP** sapoko.org/

f www.facebook.com/griefsupportsetagaya



この連続講座は世田谷区グリーフサポート事業により補助されています。

「グリーフサポートせたがや」の連続講座

グリーフとわたしのなかの生きるちから ～さまざまな道とともに歩む～

身近な人や大切なものを失って感じる、
哀しみや傷つきなどのさまざまな心身の反応を「グリーフ」といいます。
この連続講座では、「グリーフ」の多様性や、
わたしたちのなかにある「ちから」について学びます。
グリーフサポートについて一人ひとりが考え、気づき、
自分や身近な人のグリーフについて
理解を深めるための講座です。

第1回

あいまいな喪失とトラウマからの回復

2018年7月15日（日）午後2時～午後5時
三茶しゃれなあどホール「オリオン」

第2回

子どものグリーフと遊びのちから

2018年9月1日（土）午後2時～午後5時
三茶しゃれなあどホール「オリオン」

第3回

グリーフサポートとアートのちから

2018年11月18日（日）午後2時～午後5時
世田谷文化生活情報センター「生活工房」セミナールームAB

参加費 1000円（パソコン文字通訳・手話通訳つき、保育は要申込）*介助者は参加費無料

定員 先着100名（当日参加可・満席の場合は事前申込者優先）

申込先 Email、電話またはFAXで一般社団法人グリーフサポートせたがやへ

Email：griefsetagaya@yahoo.co.jp、電話：03-6453-4925、FAX：03-6453-4926

留守電の場合は、お名前とご連絡先を入れてください。折り返しご連絡します。

*単発の参加も可能です。

*原則として、世田谷区在住・在勤・在学の方が対象です。

*会場にはエレベーターがあり、会場内は車いすで移動できます。

主催：一般社団法人グリーフサポートせたがや

共催：世田谷区

所管：世田谷保健所健康推進課



第1回 あいまいな喪失とトラウマからの回復

家族や友人が行方不明、認知症、脳外傷、うつ、依存症になるという状況や、慢性疾患、転居、離職、離婚、施設への入所などは、つかみどころのない喪失感、いわゆる「あいまいな喪失」をもたらします。喪失の終結や解決を無理やり求めるのではなく、「わからない」ことを受け入れ、個人・家族・コミュニティのレジリエンス（回復力）を見出していくことについて考えます。

日時：2018年7月15日（日）午後2時～午後5時

場所：三茶しゃれなあどホール「オリオン」（世田谷区太子堂2-16-7 三軒茶屋分庁舎5F）
東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅から徒歩5分

講師：石井千賀子さん

（世田谷区グリーフサポート事業検討会委員、ルーテル学院大学、TELLカウンセリング）

TELLカウンセリングで家族療法の臨床活動の他、ルーテル学院大学で家族療法の教育に携わる。国立精神衛生研究所（現精神保健研究所）での研修を経て、米国バトラー大学大学院にて修士号取得。1998年、ルーテル学院大学にて「だいじな人をなくした子どもの集まり」を発足し、活動とその研修に13年間携わった。東日本大震災後に立ち上げた「災害グリーフサポートプロジェクト（JDGS）」世話人。著書に日本家族療法学会編『家族療法テキストブック』所収「自死と家族」（金剛出版）、訳書に『あいまいな喪失とトラウマからの回復～家族とコミュニティのレジリエンス』（誠信書房）、論文に『精神療法』所収「自死による曖昧な喪失を体験した子どもと家族へのケア」ほか多数。

第2回 子どものグリーフと遊びのちから

子どもはトラウマや喪失を遊びのなかで再現します。動揺したり、緊張したり、おびえたりせずに、人生の困難に対処するにはどうすればよいか、遊びのなかで学ぶとされています。現在、国立がん研究センター中央病院緩和医療科でがんの親をもつ子どもとその家族のサポーターとして活動されている小嶋リベカさんのこれまでの経験をもとに、子どものグリーフの多様なあらわれ方と遊び（プレイ）にあらわれるちから、そして子どもへの支援のありかたについて学びます。

日時：2018年9月1日（土）午後2時～午後5時

場所：三茶しゃれなあどホール「オリオン」（世田谷区太子堂2-16-7 三軒茶屋分庁舎5F）
東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅から徒歩5分

講師：小嶋リベカさん

（世田谷区グリーフサポート事業検討会委員、国立がん研究センター中央病院 ホスピタルプレイスタッフ、British Association of Play Therapists 認定プレイセラピスト、臨床心理士）

英国ローハンブトン大学大学院プレイセラピーコース修了。プレイセラピスト、臨床心理士。米国ダギーセンターでのグリーフサポート研修及び臨床、英国 Whipps Cross 病院や St. Christopher's Hospice でのセラピスト研修及び臨床を経て、現在に至る。共著『子どものグリーフサポートグループの意義を考える：ルーテル学院大学および日本ルーテル神学校における17年間の子どもの集まりの取り組みを通して』（ルーテル学院研究紀要）。



第3回 グリーフサポートとアートのちから

心の揺れやざわつき、もやもやした思い。グリーフを抱えると言葉にならない、言葉にできないことがたくさんわきおこります。3つの学校の実例を紹介したダギーセンター制作のDVD『教育現場におけるグリーフサポート～死別体験にどう向き合うか～』（日本語字幕つき）を題材に、アートセラピストとして、描画や創作のプロセスに寄りそい、作品を介した心の声に耳を傾けてきた倉石聡子さんにアートのちからについてお話をうかがいます。

日時：2018年11月18日（日）午後2時～午後5時

場所：世田谷文化生活情報センター「生活工房」（キャロットタワー内）
5F セミナールーム AB（世田谷区太子堂4-1-1）
東急田園都市線・世田谷線「三軒茶屋」駅から徒歩5分

講師：倉石聡子さん

（アートセラピスト、臨床心理士）

Notre Dame De Namur 大学院マレッジ・アンド・ファミリーセラピー / アートセラピー修士。現地のファミリーセンターなどで研修を積み、帰国後は教育相談や不妊カウンセリング、子どもから大人のメンタルヘルス全般に関わる。現在はスクールカウンセラーとして子どもや保護者、教員の支援にたずさわるほか、アートセラピーのスタジオを開設し個人・家族セッション、スタディグループやスーパービジョンの提供を行なう。2017年より、身近な人の暴力や喪失、さまざまなトラウマを体験した子どもと大人のアートグループを実施している。

会場までのアクセス

第1回（7月15日）、第2回（9月1日）の会場（三茶しゃれなあどホール「オリオン」）
第3回（11月18日）の会場（キャロットタワー「生活工房」セミナールーム AB）

*会場にはエレベーターがあり、会場内は車いすで移動できます。駅のエレベーターの設置状況については「らくらくおでかけネット（www.ecomo-rakuraku.jp）」のサイトが参考になります。

